

## 第3回浜松市ユニバーサルデザイン審議会会議録

日 時：令和3年3月17日（水） 午後2時30分～3時40分  
会 場：浜松市役所本庁8階 第3委員会室  
出席委員：伊豆裕一会長、太田順子副会長、鈴木里枝子委員、趙驕陽委員、松井章子委員、諸井宏司委員、安田育代委員、吉林久委員  
欠席委員：石塚良明委員、倉橋千弘委員  
事務局：奥家章夫市民部長、河合多恵子課長補佐、森下昌和UD推進グループ長、井原卓巳  
傍聴者：0名 ※報道関係者2名  
会議録作成者：UD・男女共同参画課 井原  
記録方法：発言者の要点記録（録音の有無：有）

---

### 《会議次第》

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議 事
  - (1) 令和2年度主要事業実績について（実績経過）
  - (2) 第3次ユニバーサルデザイン計画策定に係る意識調査及び意見交換会について
  - (3) 第3次ユニバーサルデザイン計画（骨子案）について
- 4 その他
- 5 閉 会

---

### 《配付資料》

- （資料1）令和2年度 主要事業実績（経過実績）
- （資料2）令和2年度ユニバーサルデザイン意識調査報告書（案）
- （資料3）ユニバーサルデザイン意識調査説明資料
- （資料4）ユニバーサルデザイン計画（骨子案）

---

### 《会議の経過》

#### 1 開 会 （事務局）

第3回浜松市ユニバーサルデザイン審議会を開催する。

当審議会は、浜松市ユニバーサルデザイン条例第18条に基づき、浜松市ユニバーサルデザインの推進に関する調査、協議および評価をする組織として設置されているものである。本日は石塚委員、倉橋委員、UD・男女共同参画課長の新谷が都合により欠席である。

## 2 会長あいさつ

伊豆会長挨拶

## 3 議事

(事務局)

当審議会は、「浜松市附属機関等の会議の公開に関する要綱」に基づき、公開会議とする。また会議録は事務局で作成し、「浜松市附属機関等の会議録の作成及び公開に関する要綱」に基づき、発言した委員の名前を記載の上、公開することとする。

議事の進行については、浜松市ユニバーサルデザイン審議会運営要綱第4条の規定により議長は会長が務めるとされているため会長にお願いしたい。

### (1) 令和2年度主要事業実績について(経過実績)

事務局より

(資料1) 令和2年度 主要事業実績(経過実績)について説明

(伊豆会長)

事務局からの説明について、質問や感想等があればお願いしたい。

(吉林委員)

新規採用職員研修については、対象は全員か、それとも希望者のみか。

(事務局)

新規採用職員全員が対象である。

(松井委員)

当委員会室のパーテーション先端に貼付されたシールは、目の見えにくい人も含めた衝突防止対策としてとても良い。流石はユニバーサルデザインの街であると感じた。

UD絵本ワークショップにおいて作られた絵本はその後どうなるのか。

(事務局)

静岡文化芸術大学で開催しているUD絵本コンクールに応募する人もいる。優秀な作品は、大学内に展示するほか、実際に当事者に使い勝手等の意見を聞くこともある。

**(伊豆会長)**

常時展示しているわけではなく、担当の先生が保管していることを補足させていただく。将来的に良い作品は出版化まで持っていきたいと考えているが、子供の作った作品のまま出版できない等の課題がある。

**(松井委員)**

当事者が良いと思うものがあれば出版等、全国展開できると良い。

**(安田委員)**

企業のUD出前講座の申込件数増加の理由として、締切の延長と説明があったが、その他の働きかけはなく、期間を延長しただけで大きく件数が増加したという理解でよいか。

**(事務局)**

企業側に、実施にあたってのコロナ対策を検討していただき、掲示板等においてPRしたことによる増加である。

**(2) 第3次ユニバーサルデザイン計画策定に係る意識調査及び意見交換会について**

**事務局より**

(資料2) 令和2年度ユニバーサルデザイン意識調査報告書(案)

(資料3) ユニバーサルデザイン意識調査説明資料  
について説明

**(伊豆会長)**

事務局からの説明について、質問や感想等があればお願いしたい。

**(諸井委員)**

事業所の意識について、UDに特に配慮していないと回答した事業所の割合が30%と高いが、業種によって意識や取り入れていない理由、UDの必要性等は異なるため、その辺りが見えると今後、どの業種に対してUDを推進していくべきか等が明確になると思う。

**(事務局)**

今回の調査は無作為抽出であるため、委員のおっしゃる通り、業種別にもう少し具体化したほうが傾向が見えてくると考える。データとしては所有しているため、業種別の傾向について確認し、課題等検討していく。

**(松井委員)**

多目的トイレ、思いやり駐車場について、アンケートでは「設置状況をどう感じるか」と聞いているにも関わらず、説明資料では「利用しやすいと感じるか」とまとめられている。これはどのように見ればよいか。

「設置状況をどう感じるか」と併せて、「利用しやすいと感じるか」についても聞いていただきたい。

**(事務局)**

委員のご指摘の通り、十分に設置されていることと、必要な方が利用できているかは別であると考えます。

**(吉林委員)**

3点発言させていただく。

1点目。回収率は関心度のバロメーターである。年々改善されているようだが、47.1%という値はまだまだ低いと感じる。

2点目。理解度・認知度から、10～20歳代のUDへの意識の高まりが見え、学校教育の効果が反映されていると感じる。一方で、事業所の意識は冷え込んでいる。若い世代が社会に出てから現実と直面し、UDの意識が低くなることも懸念されるため、事業者向けの啓発が重要である。

3点目。UDに詳しくない知人にアンケートに回答してもらったが、UD自体が分からないと回答することが難しいようである。「施設の利用しやすさ」「UD化」などは理解しづらい。また、回答者の置かれた境遇によって、温度差が大きいと感じる。特に事業所については、回答者の役職によっても大きく異なるため、ある程度グループ分けして分析する必要がある。

**(安田委員)**

回収率がもう少し上がると良いと思う。例えば、郵送での回答とQRコードでの回答を選択できるようになれば回収率は上がるのではないかと。システム的に難しいかもしれないが、検討する価値はあると思う。

説明資料の10ページのグラフだけが、年度順が逆である。統一した方がよい。

**(伊豆会長)**

アンケート調査自体が、実はユニバーサルな調査手法ではないが、大人数からのヒアリングはアンケート調査しかないという実態がある。ただ、UDという観点から工夫する余地はあると感じる。

**(鈴木委員)**

円グラフの枠線が無いと見づらく感じる。

10～20 歳代の 10%がUDについて詳しく知っているという回答しており、UD教育の効果を感じる。また、詳しく知っていると言いきれる親世代がいることから、子供を通じた教育の重要性を感じた。

60～70 歳代が、キャッシュレスやオンデマンド交通等のデジタル活用について、あまり便利と感じないのは、セキュリティやリテラシーの問題があるかもしれない。色々な事項と絡めて解決していく必要がある。

### (3) 第3次ユニバーサルデザイン計画（骨子案）について

事務局より

(資料4) ユニバーサルデザイン計画（骨子案）  
について説明

(伊豆会長)

事務局からの説明について、質問や感想等があればお願いしたい。

(吉林委員)

第3次計画について、しくみ（ソフト）、まち（ハード）という表現に違和感がある。「まち」という表現は変えた方が良い。例えば「住まい」などはどうか。

(諸井委員)

郊外地域のUD化について、今後、超高齢化社会になっていく中で、地域の中で支えていくことが必要である。市街地とは違う、郊外地域におけるUD化が計画に入ってくると良い。これは第2次計画の施策に無かったものである。

(趙委員)

中国に荷物を送るために郵便局に行った際、パソコンや電話で登録が必要だったが、英語で入力する必要があり、結局送ることが出来なかった。ラインなど、若い世代はできるかもしれないが、若者の時代の中、高齢者はどうすればよいかは課題であると感じる。

(太田委員)

デジタルについて、分かる人と分からない人に分かれてしまう状態にある。もっと地域を活性化させることで、今までと違った形で人とのコミュニケーションを進める必要がある。浜松市はUDの取組として、とても良いことをやっていると思うし、データもとっている。ただ、住みやすい地域であるためには、地域のつながりが重要である。テレワークなど、若い人はできるが年配

の方はできない。そのようなときに、若い人がネットを教える。そういった繋がりが大切である。

#### **(事務局)**

意識調査に基づき意見交換会を開催したが、その中でも、デジタル化が進む中でそこから取り残される人たちとの差が生じたとき、それが無いようにしなければならず、そのためにはやはり人と人との繋がりでないかという意見があった。骨子案についても、「心」を前に出して繋げていく計画にしたいと考えている。

#### **(松井委員)**

骨子案について、資料としての作り方は第2次計画の方が見やすいと思う。第3次計画はハード・ソフト・ハードがばらばらになっており、ハードから各事業にたどり着くことが難しい。率直に第3次計画の骨子案は分かりにくい。

また、子供は大人の行動に倣うため、子供の教育だけに重点を置きすぎるのではなく、大人が実践できるような研修、例えば、事業所に対する研修等に力を入れると良いと思う。

#### **(伊豆会長)**

市役所として、仕組みを作ったり、施設を作ったりすることはトップダウンでできるが、心については市民からのボトムアップである。UDについて、第1次、第2次ではトップダウンが中心であったが、第3次では市民の自発的な盛り上がりを促す計画にする必要がある。

## **4 その他**

委員挨拶

市民部長挨拶

## **5 閉 会**